

7 課

8月15日

み言葉を伝える



安息日午後 8月8日

暗唱聖句

このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところの事をなし、わたしが命じ送った事を果す。(イザヤ 55 : 11、口語訳)

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も／むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす。(イザヤ 55 : 11、新共同訳)

今週の聖句

詩編 119 : 105、エレミヤ 23 : 29、ヘブライ 1 : 1~3、IIテモテ 3 : 14~17、Iヨハネ 1 : 7~9、コヘレト 3 : 1、IIテモテ 4 : 2

今週のテーマ

あかしをするとき、私たちはイエスのことを語ります。しかし、聖書がなければ、私たちはイエスについて何がわかるでしょうか。ましてや、大争闘、神の愛、主の誕生、生涯、奉仕、死、復活、再臨について、もし聖書を持っていなかったら、どれだけのことがわかるでしょうか。

自然界は神の威光と力を啓示していますが、救済計画のことは明らかにしていません。私たちは神の救いの計画をイエスから学びます。イエスは、「まことの光で、世に来てすべての人を照らすので (す)」(ヨハ 1 : 9) が、それにもかかわらず、神の真理を十分に説明するための聖書がなければ、聖霊が私たちの心に啓示してくださることは限られます。記された神の言葉は、「生ける言」であるイエスの最も明瞭で充実した啓示なのです。

宗教指導者たちは神の言葉を研究しましたが、その本質的なメッセージを彼らの多くが受け取りそこねました。「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」(ヨハ 5 : 39) と、イエスは言われました。正しく理解されるなら、聖書の教えはいずれも、イエスの品性のすばらしさを映し出しているのです。私たちが神の言葉を伝えるとき、その主要な目的は、私たちが正しく、ほかの人が間違っていると証明することではありません。そうではなく、私たちが伝える真理のすべての面においてイエスを示すことなのです。

問1 詩編 119:105、エレミヤ 23:29、ルカ 8:11、マタイ 4:4 を読んでください。これらの聖句では、神の言葉を説明するためにどのような五つの象徴が用いられていますか。神の言葉をあらわすために、なぜこれら五つの象徴が選ばれたのだと、あなたは思いますか。

これらの聖句で用いられているさまざまな象徴は、神の言葉の主要な機能をいくつか説明しています。私たちがほかの人に聖書を伝えるとき、それは人生を照らす光のようです。「世の光」であるイエスは、神についての見解と神のご品性の本質に関する誤解の闇を打ち破られました。神についての誤解によって暗くなった心は、神の言葉を通して聖霊によって照らされるのです。

エレミヤによれば、神の言葉は火や槌つづに似ています。それは私たちの人生の罪という不純物を焼き尽くし、かたくなな心を打ち砕くからです。私たちの手助けによって、人々が聖書の中にイエスの栄光を見るとき、彼らのかたくなな心は砕かれ、イエスの愛の火が利己心、貪欲、情欲、自己中心性という不純物を焼き尽くします。

神の言葉はまた、種にもたとえられています。種の主要な特徴は、それが命の源であることです。種は時間をかけて成長します。すべての種が同時に発芽するわけではありませんし、すべての植物が同じ速度で成長するわけでもありません。しかし適正な状況下であれば、種の中の命は、土の中で突然新しい命になります。私たちがほかの人の心にみ言葉の種をまくとき、必ずしもすぐに結果はあらわれませんが、その種は静かに成長しており、もし彼らが聖霊の促しに応じるなら、神が定められた時に、種は神の王国ための収穫をもたらすのです。

イエスはみ言葉を栄養のあるパンにたとえておられます。私たちの多くが知っているように、おいしいパンほど満足感を与えてくれるものは多くありません。神の言葉は魂の飢えを満たし、私たちの心の中の霊的な欠乏に栄養を与えます。あなたがほかの人にみ言葉の約束を伝え、彼らがその中にイエスを見いだす手助けをするとき、彼らの生活は、主の憐れみあわによって変えられ、主の愛に魅了され、主の恵みに驚き、主のみ前で満たされるでしょう。

私たちが聖書からしか知りえない真理について、もう一度考えてみてください。私たちはこのことから、聖書が教えていることを大切にすることについて、何を学ぶべきですか。

問2 ヘブライ1:1~3、4:12、詩編33:6、9を読み比べてください。これらの聖句は、神の言葉の力について、どのようなことを教えていますか。

神の言葉は、生ける言葉です。神の言葉には、そこにはっきり記されていることを実現する力が伴っています。人間の言葉は、何が存在しているかについて語ることはできますが、神はまだ存在していないもの（起きていないこと）について語り、み言葉の力によってそれらを創り出す（引き起こす）ことがおできになります。神の言葉は、創造の力を持つ言葉です。神の口から発せられる（耳に聞こえる）言葉には、それが宣言するあらゆるものを生み出す力があります。

創世記1章の天地創造の物語の中で、「神は言われた」（創1:3、6、11、14、20、24、26、29）という表現が繰り返し用いられています。神が宣言される言葉には、それが語られた瞬間に、乾いた土地があらわれ、植物が芽生え、花が咲き、果樹が実をたくさんつけ、動物たちが次々に生まれてくる力がありました。

創世記1章では、神の創造のわざに関して興味深いヘブライ語の言葉が使われています。「バーラー」という言葉です。無から創造される神の力を示しています。この動詞は、神が主語の場合にのみ用いられます。つまり、神だけが「バーラー」できるのであり、神は、ご自分が発した言葉によってそうなるのであるのです。

神は、ご自分の言葉の力によってこの世を創造されただけでなく、ご自分の言葉でこの世を支えておられます。神が発せられた言葉の中にあるのと同じ力が、書かれた神の言葉の中にもあります。天地創造の際に活躍された同じ聖霊が、靈感を与えて聖書を書かせられた際にも活躍しておられました。私たちが聖書を読んだり、それをほかの人に伝えたりするとき、聖霊はともにいてくださいます。神の言葉の中には、命を与え、人生を変える創造力があるのです。「すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生じせしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限らない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する」（『教育』135、136ページ）。

私たちが個人的に神の言葉の中に見いだされる約束をつかむとき、人生が変えられます。そして、ほかの人がこのような驚くべき約束をつかむように手助けするとき、聖霊が彼らの人生をも変えてくださるのであるのです。

神の言葉を研究することには、さまざまな恩恵があります。使徒ペトロは、私たちは聖書の約束によって「神の本性にあずからせていただくようになる」(Ⅱペト1:4)と言い、ヤコブは、「心に植え付けられた御言葉……は、あなたがたの魂を救うことができます」(ヤコ1:21)と述べています。またパウロは、「この〔恵みの〕言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです」(使徒20:32)と付け加えています。聖書には人間をあがなう目的があります。聖書全体の中にイエスを見ることで、私たちは変えられます。み言葉の中にイエスを見ることで、私たちは彼のように変えられるのです(Ⅱコリ3:18)。「ながめることによって変化するということは、知的方面においても霊的方面においても1つの法則である。心は、いつも考えていることに次第に順応するものである」(『希望への光』1868ページ、『各時代の大争闘』下巻309ページ)。

問3 Ⅱテモテ3:14~17、ヨハネ17:14~17を読んでください。神の言葉を研究することで得られるさらなる恩恵は何ですか。

使徒パウロは、若き仲間テモテに手紙を書き送ったとき、聖書に忠実でありなさい、また靈感を受けたみ言葉を研究することの恩恵を伝えなさいと勧めています。パウロによれば、聖書は「人を教え……るうえに有益です」。聖書は真理を明らかにし、誤りを目に見えるようにします。人類に対する神のご計画の概略を示し、私たちの罪を戒め、私たちの誤った考えを正し、義に導くのです。聖書はキリストの義を明らかにし、罪深い愚かさからキリストの義の美しさへ、私たちを導きます。イエスの無私の愛と私たちの自己中心性を対比して見ると、私たちは呆然と立ちすくむのです。聖書の中に、キリストの憐れみと配慮の深さを見るとき、私たちの生き方は変えられます。私たちがみ言葉をほかの人に伝えるとき、彼らもまた劇的に変えられます。み言葉によってイエスを見ることで、私たちはもっと彼ようになります。あかしとは、私たちが考えることを伝えることでもなければ、私たちが信じることを伝えることでもありません。あかしとは、神の言葉の中に見いだされる永遠の真理を伝えることに尽きます。神の言葉によって私たちが信じがたいほど祝福されるとき、それがほかの人たちの人生もどれほど祝福しうるかを、私たちは信頼性を持って語るができるのです。

あなた自身が困難に直面し、あなたにとって神の言葉が力になるとわかった時のことを考えてください。この経験から、あなたは何を学びましたか。

ある人が数えたところ、聖書には3000以上の約束があるといます。その約束の一つひとつは、愛情深い神の心から生じたものであり、その神は、「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方」（エフェ3:20）です。神の約束は、神が私たち1人ひとりと交わされる誓いです。私たちが信仰によってこの約束を自分のものにし、またほかの人にも自分のものとするように教えるとき、天の祝福が私たちの生活の中に流れ込みます。使徒パウロは、この聖なる現実をローマ8章の中で強調しています——「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」（ロマ8:32）。使徒ペトロは、この約束を明確にして、「主イエスは、御自分の持つ神の力によって、命と信心とにかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました」（Ⅱペト1:3）とはっきり述べています。キリストは、十字架で死に、サタンと陰府の支配や力に勝利することによって、私たちが信心深く霊的な人生を送るのに必要なあらゆるものを与えてくださったのです。彼はまた、私たちの基本的な必要、肉体的な必要をも満たすと約束しておられます。

問4 Ⅰヨハネ1:7~9、フィリピ4:13、19を読んでください。これらの約束はかなり異なるものですが、神のご品性について、どのようなことを教えていますか。これらの約束は、あなたの人生にどのような影響を与えてきましたか。

これらの箇所に記されている約束は、異なることに関するものですが、それらが描く神の姿はとても似ています。愛情深く赦してくださる神、無限の力を持っておられる神、基本的な必要を気遣ってくださる神を明らかにしています。これらの約束は、神が私たちを心から気遣っておられることを保証しているのです。

問5 ヘブライ3:19、4:1~3、マタイ13:58を読んでください。これらの聖句は、信仰が必要であることについて、どのようなことを教えていますか。

聖書の中には、神のすばらしい約束がたくさんあります。私たちが信仰によって聖書の約束を信じる時、約束の祝福は私たちのものになります。キリストが約束してくださったからです。私たちの人生で神の約束の成就が制限されるのは、聖書の中に約束されていることを行う力が神にあると、私たちが信じないからです。希望に満ちた聖書の約束を必要としているだれかのもとへ、今週、神があなたを導いてくださるよう、祈ってください。

良い知らせは伝えるためにあります。あなたの人生の中で、良い知らせを耳にして喜んだ時のことを思い出してください。それは、あなたが婚約した日、子どもが生まれた日、再就職した日、新しい車や家を買った日だったかもしれません。あなたはとても興奮して、それを伝えずにはいられなかったはずです。

自分の喜びをほかの人に伝えるのはすばらしいことですが、全宇宙の中で最も良い知らせは、イエスの物語です。キリストによる救いについて、み言葉の中に新たな洞察を見いだすとき、私たちの心は喜びであふれ、それをだれかに話したいと思うものです。宗教指導者たちが使徒たちの伝道をやめさせようとしたとき、「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」（使徒4：20）と、ペトロははっきり言いました。

「人は、ひとたびキリストのもとに来るや否や、イエスがいかに尊い友であるかをほかの人に知らせたいと望みます。人を救い、清める真理は、どうしても心のうちに秘めておくことができません。私たちがキリストの義の衣をまとい、内住する聖霊の喜びで満たされているならば、黙っていることはできないはずです」（『キリストへの道』改訂第3版文庫判111ページ）。

ローマ1：14～16で、パウロはこう記しています——「わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」

使徒パウロは飽きることなく、自分の回心の物語を語り続けました。彼の心はイエスにある喜びであふれていたのです。パウロにとって、良い知らせは伝えるためにあり、彼は黙ってはいられませんでした。

問6 イザヤ50：4、コヘレト3：1、IIテモテ4：2は、神の言葉を伝えることに関して、どんな重要な原則を教えてくださいか。

私たちがキリストとキリストの奉仕に人生をささげるとき、彼は機会の扉を開いてくださいます。私たちが「時宜にかなった言葉」を語ったり、キリストがすでに心を開いておられる人たちに、ふさわしい時に話しかけたりする機会の扉です。あかしをする際には、聖書の三つの原則をいつも覚えていなければなりません。それは、「何を話すか」「どのように話すか」「いつ話すか」の三つです。

参考資料として、『キリストへの道』の「神についての知識」の章、『伝道』第14章の中の「聖書研究の技術」の項を読んでください。

神は、私たちの周囲にいるすべての人の心に働きかけておられます。もし私たちに、神がすでにどこで働いておられるのかを見分ける霊的な力があれば、私たちはほかの人にみ言葉を伝える機会を定期的に見いだすことでしょう。神が心の土を耕しておられるので、私たちには福音の種をまくチャンスがあります。聖霊は、ニコデモ、ヤコブの井戸の女、長年出血の止まらない女、十字架にかけられた強盗、ローマの百人隊長など、多くの人がみ言葉を受け入れるように、イエスと出会う前から彼らの心を準備しておられました。生活環境や、聖霊の印象づけを通して、彼らはキリストのメッセージを受け入れる準備ができていたのです。

私たちには、一緒に祈ってもよいですかと相手に尋ねたり、聖書の約束を伝えたり、文書を手渡したりするのをためらう気持ちが生まれつきあるかもしれません。しかし、私たちがだれかに自分の信仰を伝えるよう心を動かされる時、たいいていそれは、私たちの心を動かしてくださった聖霊が、私たちのあかしを受け入れるよう、その人にすでに働きかけておられるからなのです。

話し合いのための質問

- ① もし何かのことでひどい罪悪感を抱き、神の赦しゆるを必要としている人があなたのところに行って来たとしたら、あなたはどのような助言をしますか。また、どんな聖句ゆゑを伝えるでしょうか。あなた自身の人生の中で、罪悪感と神の赦しゆるの力について、どのような経験をしたことがありますか。
- ② 時として神は、ご自分の真理を知ってほしいと願うがゆえに、人々を私たちの生活の中に連れて来られます。どうしたら私たちは神の導きにすぐに気づけるのでしょうか。